



機関紙

一水会

No.3

発行日/2014年12月14日

発行人/小川 游

編集責任者/さきやあきら
発行/一水会事務局
〒330-0074

埼玉県さいたま市浦和区
北浦和5-3-3 B-108
山本耕造方

Tel.048(816)8805
<http://www.issuikai.org/>

題字/有島 生馬

巻頭言

機関紙一水会、第3号（春号）のための原稿もすべて出そろい、発刊にむけて、スタッフが、旺盛な取り組みを展開中の由、各位のご努力に対し、心より感謝致しております。

第3号の中味は、今までに増して豊富であるのと、とりわけ、一水会の中興の祖でもあられた、故・高田誠先生の生誕百年にちなむ特集と、前号にひきつづいての、寺井力三郎先生への訪問インタビューの頁が、かなり充実したものと、聞き及んでおり、共に、高田先生の同門という個人的な立場からも

嬉しい限りです。

また、第76回一水会展を、いろいろな角度から総括する企画についても、大いに期待させられます。

そして、最近、全国的に地域での支部活動が徐々に芽生えてきていると伝えられており、改めて、この機関紙の役割の大きさを思う次第です。

二〇一四年秋 小川 游



「公募団体ベストセレクション 美術2014」展

五月四日～二七日まで東京都美術館に於いて、全国公募の27団体による「公募団体ベストセレクション美術2014」が開催されました。会期中各団体から1名ずつのアーティストトークがあり、一水会では田中義昭先生が担当されました。先生は十八日午後、会場いっばいに詰めかけたファンを前に自作について熱のこもったお話しをされました。

『一水会は今年76回展を迎えます。創立の精神として西洋絵画の伝統である、写実の本道を守り、技術を重んじる団体です。写実を追求するのはとても大切ですが、21世紀の現在、時代の流れもありますから、我々は自分の創作能力を活かして、もっと自由に表現していきたいと思っております。ただありのままに表現するだけでなく、今は個の時代ですから、それぞれの作家が自分自身の作品を深く追及する事が一番大切だと考えております。』

エスキースをまとめて、物と物とのせめぎ合い、消滅と再生、そういう作品を追求していきたいと思っております。

ある意味で作品とは全て自画像だと思っております。』（以上、田中先生談）

今年には田中義昭、武藤初雄、浅見文紀、宇野のり子の四氏が出品されました。（加曾利記）

これは自分の信念の問題ですから、私としてはこの作品のように流動的な、ダイナミックな作品を描きながら自分自身を表現したいと思っております。

自分の心情から自然に生まれてくるものかと思っております。

「公募団体 ベストセレクション 美術2015」展

会期：2015年5月4日～27日

一水会からは、久保田辰男、佐藤道雄、山本勇、久保慶議の4氏が出品予定です。

「特集」第76回一水会展

展 評



辰巳 文一

今年の一水会展から、何点かの作品を取り上げてみたい。

まず「会員努力賞」となった方々の作品は、長年にわたり一水会展に出品を続けた人達で、「断崖の白い街」森敬介をはじめ各自の秀作が展示されていた。

また、魅力のある力作が各室に展示されていたが、「裏町Ⅵ」柳沢賢一郎は、緑色の戸や窓ガラスそして道路などの表現も良く印象に残る良い作品であった。

「花ひらく朝」西真里子は、清楚な色調と画面構成の工夫に引き付けられた。「母」小笠原あい子は、モデルになった母の表情がとてもよく、その心が伝わってくるように思われた。岡山豊樹の作品は二点並んでいたが、「路傍の石Ⅱ」は道にうつった影の取り入れ方がとてもよかった。「ホール入口・投影」加曾利光男は、構成的で色調もよかった。「時感」寺井義夫は、窓からさし込む光のとらえ方がよく、部屋の中の空気が感じられた。「街角」平林邦雄は、建物が並ぶ中に光が当たりモチーフと色調の良さが感じられた。



ヴェネツィアの夜 辰巳 文一

「通り過ぎる秋」山田和夫、「通学路の朝」久世夢二、「残照の中」増田綾子、「真冬日の道」勝谷明男などの作品も魅力があり印象に残った。一水会展に並ぶ作品を見て常に思うことは、観る人を魅了させる作品が多いということ、詩情のただよう良い作品も見落せない。以上

新会員紹介

二十年前のオ

リンピック

で金メダ

ルを取っ

た選手が、

『今まで生きて

来て一番幸せ』とコメントした

時、私も一水会初人選。『この絵

が描けて幸せ』と喜びをかみしめ

ました。

郷愁をさそう絵を描きたいと

『描けて幸せ』を積み重ね、やっ

とあこがれの会員にたどりつき

ました。

ご指導いただいた先生方や先

輩方、ささえてくれた仲間の皆

さんに深く感謝するとともに、

会員として恥ずかしくない作品

を発表出来るよう尚一層研鑽を

積んで参ります。

.....

東京都西日暮

里の出身で

す。五十

才で初出

品し今年十

三年目になりま

す。初出品で新人賞を頂いたの



久保 博孝 さん



岡田 三千代 さん

は人物画でした。最近「ちんぷん獺祭

という題名で静物画を描いてい

ます。鈴木益躬先生の後輩で多

摩美出身です。一水会へ出品す

る事になったのも鈴木先生との

出会いがきっかけとなり、今で

も感謝致しております。気をぬ

かず、手をぬかず、より良い作

品を創りたいとの毎日です。こ

れからもご指導宜しく御願致

します。

.....

このたびは

会員に推挙

して頂き

まして、

誠にありが

とうございま



戸苅 武宏 さん

この度は歴史

と伝統に輝

く一水会

の会員に

ご推挙頂き、

身に余る光栄と

存じます。心より御礼申し上げます

ます。出品させていただいてから

日の浅い私にとって、ほぼ同じこ

ろに機関紙「一水会」が創刊されま

したことは本当に幸運でした。巻

頭の「二十一世紀に於ける選択」と

小川游先生の御言葉はこれからの

制作への大きな指針となりました。

今後とも御指導の程、よろ

しくお願い申し上げます。

.....

私が絵を描く

ようになっ

たのは、

芸術を素

直に賛美し

た夏目漱石の

『草枕』の影響です。漱石は、芸

術の士は人の世を長閑に、心を

豊かにするから尊いと言いつり

ました。そんな絵を描くことが

私の夢です。

.....

この度の会員推挙は一水会の

先生方のご支援ご指導の賜物で

す。夢に一步近づいたかな、と

感謝の気持ちで一杯です。これ

からは一水会の一員として精進

して参りますのでよろしくお願

い申し上げます。



柳沢 賢一郎 さん



保坂 晶 さん



一水会優賞
花ひらく朝 西 真里子



文部科学大臣賞
通り過ぎる秋 山田 和夫

受賞のことば

文部科学大臣賞

私の一水会展



山田 和夫 さん

初入選は第17回展、大学三年生の時でした。

腰に手拭いをぶら下げ、高下駄履きで上京したものです。

この絵のモデルは我が家の飼い猫です。

古いレール置き場は猫たちのプロムナード、「通り過ぎる秋」の舞台になっています。

発想を如何に具現するかは永遠の課題ですが、いつも同じ絵を制作していたのでは向上はあり得ません。今後は新しい具象を目標に研鑽して参りたいと思っております。

一水会優賞



西 真里子 さん

暖色なのに涼しい色、寒色なのに暖かい色、そして風を感じようような動き

のある静物画が好きです。描きたい物を見つけた時はドキドキしながら一〇〇号を描き始めるのですが、感動を伝えるのは難しいです。一水会展の会場を勉強の場として、迷いながらも絵

を描く喜びを感じていきたいと思えます。本当にありがとうございます。ございました。

一水会賞



小笠原 あい子 さん

介護ベッドの脇で、寝たきりの母にモデル役を頼みます。

した。中学校勤務の残業から焦る気持ちの私に「慌てることはない」と言う母。

受賞を伝えると涙を浮かべ喜びながらも、「怖いねえ」の一言。理由を聞くと「自分を鍛えていかななくてはねえ」との示唆。溢れる涙を拭いて描いた母への思いを自分のこと以上に理解し、応援して下さった方々に感謝しています。

東京都知事賞



久世 夢二 さん

この度の受賞は身にあらまらる光栄で、ありがとうございます。どうぞございます。私は勤め

ながら長らく綱渡りのような制作で出品し、退職してからは作品を見つめて描く時間が生まれましたが、まだ「自分らしさ」を求めているところです。今は自転車という日常的なものを選んで触覚をも頼りに「日映り」を描いています。今後ともご指導の

ほど宜しくお願ひします。

損保ジャパン日本興亜美術財団賞

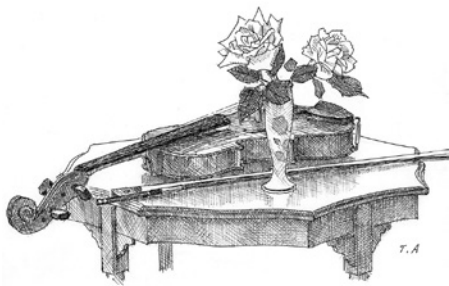
この度の受賞



才村 啓 さん

大変喜んでおります。先生方のご指導の賜物と深く感謝しております。

今回の作品は、構図を組み立てる段階でキュビズムやデ・キリコなどから受けたイメージを意識し構成致しました。そして描き進める内に煩雑な印象が強くなりすぎたので、少しモチーフを減らしまとめていきました。最初の画因と安定性のバランスが今回一番苦労した点でもあり面白かったところです。





損保ジャパン日本興亜美術財団賞
Homer 才村 啓



東京都知事賞
通学路の朝 久世 夢二



一水会賞
母 小笠原 あい子



大原女 美り 吉野谷 幸重



雪の朝 吉崎 道治



卓上 本山 唯雄



会員佳作賞
一隅 茅野 吉孝



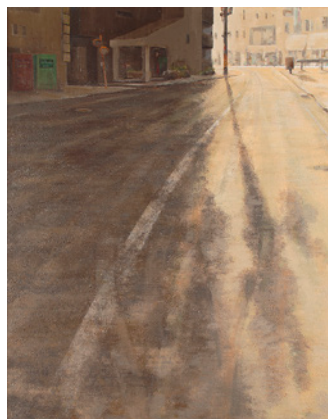
壁 皆吉 志郎(遺作)



年月 山本 耕造



石井柏亭奨励賞
収穫のあと 芝田 順子



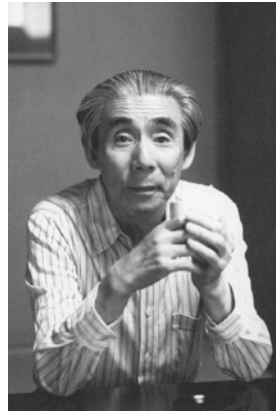
安井曾太郎奨励賞
路傍の石II 岡山 豊樹



会員佳作賞
窓辺の静物・移りゆく時間 青木 年広

高田誠先生 生誕百年

長きにわたり、一水会運営の中心として活躍された高田先生の生誕百年記念の展覧会が開かれ、先生の功績を偲ぶ多くの方々に賑わいました。



撮影 相澤 真

一九一三年九月二十四日に浦和町(現さいたま市)で代々医師の家系に生まれました。一九二九年旧制浦和中学在学の十六歳の時に初出品の「浦和風景」が二科展に初入選し注目を浴びました。翌年一九三〇年より安井會太郎に師事しています。安井からは大きな影響を受けますが、徐々に点描による独自の画風を築いていきました。

一九三七年第一回一水会展に初出品、一九三八年二十五歳の時に第二回一水会展で「中綱湖」が一水会賞、一九四二年「松原周辺」で第五回文展特選、一九六八年第十一回日展では文部大臣

賞、一九七二年には日本芸術院賞をそれぞれ受賞し、翌年には日本芸術院会員に選ばれています。一水会では一九四六年に会員となり一九六〇年に運営委員になりました。一九六二年からは一水会事務所を高田先生宅に置き、以来一九九二年にお亡くなりになるまで三十年間に渡り一水会運営の中心としてご尽力いただきました。

昨年は記念の展覧会が相次いで開催され、きよ子夫人著作の『あなたに会えて本当に良かった』(求龍堂)が出版されました。埼玉県立近代美術館での展覧会では、高田先生の作品に本

の中から抜粋された文章が添えられていました。きよ子夫人の本にある先生の言葉を紹介します。

「絵というものには統一感というものが大切なんです。はつきりした作者の態度というものを決めて、見せる必要があるのです。点描は、じっくり見て、じっくり考えて、段取りよくやるという事で、私としても基本的に好きなやり方なんです。感動する事は大切なんです。ただいたずらにカーッと熱に浮かされたように描くのではなく、一度自分の中で煮詰めて整理をして、その結果、残ったもので骨組みをつくる。時間をかけて考えても消えない感動を信頼して仕事を始めるといった、そういった態度というのが大切なですね。」

「…安井先生には絵画の真髓のようなところを教わりました。自然は最大の師であるというようなこと。素直な気持ちで自然に対し、一にも二にもよく見ること。自然の方がこちらに話しかけてくるまで見るようにと…。それに、自分が思った感じを大切に表現するといふようなこと。」

一九八六年インタビューより

(西記)



『中綱湖』 1938 F80 第2回一水会展 一水会賞

生誕100年記念展覧会

埼玉県立近代美術館
点描の詩情
—高田誠の世界—
2013年5月25日～9月1日

浦和美術館
生誕100年 高田誠
—コレクションを中心に—
前期 2013年4月27日～6月23日
後期 2013年11月16日～2014年1月19日

埼玉画廊
生誕100年
高田誠とその周辺展
第1期 2013年7月13日～8月31日
第2期 2013年10月7日～25日

新たな試み

第1回

石川一水会精鋭展

石川県一水会出品者協会はこれまで年に二回小品展を企画してきましたが、永年続いた企画はマンネリ化傾向が目につくようになりました。

そこで山本勇会長のもと、協会の一人ひとりが出品作品の向上を図ることを目的にした作品展が出来ないものかと試行錯誤を続け、ようやく今日に至りました。

出品者は第七十五回記念一水会展で評価の高かった二十四名を会友、一般の中から選出致しました。

石川一水会精鋭展は北国新聞

社、テレビ金沢、北陸放送の後援をうけて、五月三〇日より六日間、金沢市内のグリーンアーツギヤラリーにて開催されました。二

〇号で揃えられた見応えのある作品が並び、最終日には作者の制作意図を受けて出品作品の研究会が行われ、稔り多い展覧会となりました。他の会派の方々からも良い評価をいただきました。

新しい試みで始まった石川一水会精鋭展が今後も継続されることを願い、次回を期待したいと思います。(三輪記)



四国山脈を跨いで 第2回 四国一水会出品者油彩展

二〇一一年に続き、第二回展を二〇一四年六月十一日より十二日間、愛媛県新居浜市の市立郷土美術館で開催。越智会長をはじめ、四国島内在住の出品者二八名五一点に加えて、招待作品(久保田辰男、山本耕造、木村毅の三先生)三点、百号から二〇号までの作品合計五四点を展示。好評のうちに終了しました。

四国は峻険な四国山脈で南と北に分断された土地柄で、南北交流の

機会の少ないメンバーではありませんが、この展覧会は島内出品者の親和、交流のチャンスでもあり、会場は大いに盛り上がりました。会期中、入場者は一四五人、来場者は何れも熱心にじっくりと時間をかけて鑑賞され、地元の愛媛新聞にもその模様が紹介されています。

次回、第三回展は二年後、四国山脈を超えて高知で開催の予定です。(竹村記)



海鳴りと潮の香り

江の島スケッチツアー 九月二四日～二五日



今回は14都道府県から32名が参加し、講師は、浅見嘉正先生、佐藤道雄先生、武藤初雄先生、小泉元生先生、さきやあきら先生、玉虫良次先生が担当、更には、神奈川一水会の皆様方のご協力も得て、地元の人達ならではのスケッチポイントをご案内頂きました。

あいにくの天候でしたが、参加者はそれぞれの感性の赴くままに、寸暇を惜しんで没頭し、様々に表情を変える海辺のスケッチを楽しみました。

夕食後の講習会では、先生方の熱

の籠ったご指導に加えて、玉虫先生によるデッサン講座も開かれ、ご自身が高校生、美大受験生時代



に描かれた石膏像デッサンの実物7枚を披露して、基礎勉強の大切さについて実体験を通して語られました。(新井記)



第1回東京一水会展

ここ数年来、東京にも絵の勉強会があればとの声が多く聞かれるようになりました。東京在住の一水会出品者の入選率が昨今低迷している問題なども背景にあり、二〇一二年に「東京一水会」研究会を始めました。

年に一〜二回程度ですが、「いずれ発表会も…」を合言葉に努力精進し、二〇一四年四月二十五日〜三十日、念願の東京一水会展を品川区大崎の〇美術館で開催するに至りました。

本山唯雄先生、田中義昭先生をはじめ会員四十五名、出品点数四十四点(十五号〜五十号)に加えて、玉虫良次先生の小品八点。

初めて使用する美術館で、作品の点数や設営、展示などスムーズにいくか不安を感じていましたが、評判は上々。明るく、ゆったりと鑑賞しやすいと多くの好意的なコメントをいただきました。二十六日のオープニングパーティには、小川代表はじめ多くの来



賓の方にご参列頂きました。玉虫先生の乾杯の後、出席された皆様からの祝辞で大いに盛り上がりました。

六日間の入場者数は約千名でした。

東京一水会研究会の特質は、まだ一水会展(本展)に入

選の経験がない人、純粹に絵の勉強のみの人、他団体の人と様々な集団です。

東京一水会は、時代の変化と共に新たな写真・真実を追求する姿勢、作家自身の主体的な生への真実、単なる現象の知識を描いたものでなく、そ

れらを生命づけている高い魂の表現を目標とした研究会を目指し、更なる努力をします。

まだ未熟な作品も多いのですが、温かく見守ってほしいと願っています。

(廣畑記)

この人に注目③

久保 慶議さん みちのり



昨年の損保ジャパン美術財団賞(賞名は受賞当時)受賞、来年度のベストセレクション展選抜と注目されている久保さんは、現在四九歳、奈良在住で中学校の美術教師をされています。(聞き手)加賀利 光男

——一水会へはいつから?

奈良教育大の大学院を卒業してすぐでしたから、もう23年ほど前からになります。美術教師でいる以上、どこかの団体展に属して、発表を続けることが重要だと思っていました。大学で辰巳文一先生と出会ったこともありですが、多くの団体展を観たうえで一水会に決めました。

——画風が注目されていますが?

もう10年ほど前から今の描き方になりました。以前はもう少し現実に近い静物画や風景画を描いていました。日常の生活の中からモチーフを探しますが、身近にあっても見過ごされているもの、取り残されたものたちに愛着を感じています。建造物などは、描いた後に取り壊されていることもしばしばです。

昔から、古びた壁やシミの浮き出たコンクリート、雑草に心が動きまします。子どもの頃に遊んだ空き地や見た風景が原風景になっている気がし

第1回新潟・群馬一水会合同展



初めての合同展が二〇一四年五月三日～六月三日、山々に囲まれ自然に恵まれた池田記念美術館で開催された。同美術館は両県の間中に位置し、

魚沼産コシヒカリで有名な新潟魚沼市にある。池田恒雄氏(ベースボールマガジン社創設者)の生誕地、新潟県南魚沼市に平成十年に開

館し、アートとスポーツと文学の三本柱を中心に運営されている美術館である。今回の合同展は、美術館の企画展として開催された。展

示内容は七十五回記念展出品作で、三十六名の作品を展示した。期間中の入場者数は二〇〇人で、他県からも多く来館者があった。来館者からは作品の技術の高さに驚き、感動したとの感想が多く寄せられた。

雄大な八海山と駒ヶ岳を望む自然豊かな美術館で、ゆったりと絵画鑑賞できる環境が良かったと思う。

五月二日には、新潟日報に展覧会の紹介記事が掲載された。

会期中には出品者に一般の参加者も加わり、四十人で写生会が行われ、快晴の八海山をスケッチした。

会期中、美術館主催のコンサート「音を楽しむ集い」が催され、展覧会と同時に音楽も楽しんだ。

今回の展覧会で新潟と群馬の出品者間の交流が持て、親睦をはかることができた。この合同展をきっかけに今後も続けたいと考えている。

(杉森記)



ます。

——制作方法は？

壁のような下地をつくり、テンペラで描いています。テンペラは油彩のように自由に厚塗りができないので、下地作りが重要です。どうすれば気に入った地塗りができるかが目下の主要な関心事です。

テンペラにしてから油絵具は使わなくなりました。テンペラの乾いた質感や絵肌の感触が好きです。日本画にも通じるものがあります。

色は自分の好きな土系の色で描きますが、実景のリアリティを大切にしています。制作途中に何回も訪ねては、その空間に身を置き、存在感や空気感を確認しに行きます。

——日常生活は？

中学二年生の息子(野球部)と妻書を制作)との三人暮らしです。研水会や一水会の他、奈良支部展、奈良県美術人協会、大学OBのグループ展等に参加しています。

.....

以前、ラグビー部の顧問をされていたとか。スポーツが似合いそうな、胸板の厚いパワー溢れる人でした。

自由投稿欄

水路

揮毫 浅見嘉正

石川県・宇野のリ子

高齢化社会、独居老人という言葉をよく耳にする昨今、私の教室には85、86歳の婦人が3人。3人共教室からは決して近い距離ではないが特別な事情がない限り欠席されずいつも前向きな姿勢には感心させられる。大雪の日、今日は無理だろうと思っていたところ、ハアハアと息を切らして入ってこられ、イスに座ってまず一服そして帰り際に「やっぱり来て良かった！楽しかったわ！ありがとう」そのひと言に私達もとても嬉しく幸せな気分になった。毎回15分程のコーヒープレイクも大切な時間、若い人との会話、笑い、人生の先輩達から学ぶことも多い。鼻唄も聞こえてくることもある。落ち込む気持など吹っ飛ばしてしまう。上手に描くより楽しんで描くという目的で始めた教室もいつしか明るい教室になりつつあることには皆に感謝したい。公募展に出している私達はいつも楽しんで描くというわけにはいかないが、年を重ねた時彼女達のように元気で好きな絵を楽しく描いて行けたら、どんなに幸せなことだろうと思う。

「コンクリートの坂道と」路傍の石」 奈良県・岡山 豊樹

夜、バイクで細い路地を走っていると、突然ライトに照らされて凸凹の坂道に出会います。コンクリートが継ぎはぎだらけで石灰質が溶け、小さな砂利や小石が表面に表れて何とも言えない荒々しさです。割れ目が幾筋もでき、ライトの明かりで石(路傍の石)とその陰影がドラマチックに登場しました。

当初はその1個の路傍の石に心が動いていました。しかし、徐々にコンクリートの道の表情とそこに映る陰影のディテールに関心が移行して行きました。それは人の生活や自然の移ろいがあり、なんと面白いテーマでしょうか。道にはマンホールや電信柱など興味深い小道具も揃っています。また、車や雨風に痛めつけられ、剥がれ傷ついて微妙な形に変形しながら、表情豊かに(私にはそう見えます)存在し続けています。そしてそんな寡黙な道に、影は自由な形と色を見せてくれます。朝夕や季節によって動きや傾きが違い、とても素敵な表情をしています。

コンクリートの坂道と影。そんな虚と実を追い求めたいと思います。

追悼・小島義明先生

愛知県・山田 正博

筆が、ままならず、ふと先生の名を呼んでみた。聴こえるのは、雨の音だけ。それが、切ない。

今、住みなれた家の画室には、すでに描きあげた一水会展と日展への絵が、出番を待っている、という。なおさら、である。

あれは、いつの頃からだったか。先生と、中部一水会の仕事をしようになった。その、書きものの多いこと。先生は、「絵を描くより机に向う時間の方が多」と、人づてに聞いた。会の記録や企画、洞察力のす

ごさには、凡人とは脳が違うと思った。

私が、先生と対等に、つきあえたのは、酒だけでした。昔、先生と所用をすませて、立ち寄った、居酒屋の情景が、忘れられない。少し、破れた赤提灯が、師走の風にゆれた。遠い日の記憶が、追ってきた。

先生は、常に先を考え、まわりに気を遣い、人生を駆け抜けた人だった。サヨナラは言えない――。

父から子へ ふるさと津南を描く 千葉県・高橋 阜

今年の四月二六日から六月八日迄、ふるさとの新潟県津南町「なじよもん」にて、父、高橋勉と私の親子展が開催されました。

このような機会を与えられ、展覧会を楽しみにしていた今年の一月に百三歳で死去した父も多くの方々に足を運んでいただき、天国で喜んでいと思っています。ふるさとを描き続けていく私にとって、多くの地元の方とのふれあいがあり、ふるさとへの思いが一層強くなり、これからもこの地を描き続けたいと強く心に思いました。



高橋 勉 作品



高橋 阜 作品

吉崎道治のつよつよ活動 ①

出品しだした頃は

四寸巾の組み立て式額縁と木枠を巻いたキャンバスをかついで一番列車に乗り込み、夜明け前の旧都美館に向かう。薄明りのなか枠と額を組み、キャンバスを張る。まわりにも同じ作業をする常連の絵描きが、都美館の壁にたてかけた作品を見せ合つて「あゝでもない、こつでもない」。陽が上がりると絵具箱を開き描きだす奴もいる。「今年も入選出来るよ」と元気づける奴は顔見知りの爺様だが山下新太郎先生にみていただいているとか、仕上がった作品はなるべく自分より上手でない人の後に出品する。いつのまにか六十年、今では業者搬入で楽になったものだ！

会場へ通つた

その頃の私は定期を買つて何回も会場へ通つたもの。師がつけて下さつた○印の作品を観るためだ。その中には前号「水路」に登場の鷺見憲次氏作「オホーツクと流水」もあり、なつかしかった。安井先生がみえると辺りの絵描きは直立不動だし、審査員控室前は足早に通るのが常だった。中村善策先生は作品の前に行かずに構図、色等隅々迄覚えておられたのは驚きだった。宮原麗子先生のお父様高橋貞一氏の作が特陳で五、六点？ あつた時は色の渋さと構図に引きつけられ何回通つた事か…その内に美風会の人に覚えられ、独立・行動・春陽など顔パスで勉強させてもらい今の私があるのかもしれない。

「一年の目当て」あれこれ

栃木県・渡邊 道男

昨年退職し、晴れて自悠人となった。これからの人生、どのように生きるかは己の自由。ただ、漫然と過ごすのももつたないと思ひ、自分のやりたいことの中から目当てを設定することにした。

まずは一年目。絵に関しても決めたのだが、絵描きの会報に載せるのも気恥ずかしいので、他の一つを紹介する。まず、「ラーメン店食べ歩き50店」。どうにか無事に達成できた。

二年目の今年度は、「カフェめぐり25店」にしようと思ひ、本屋で本を購入したのであるが、宇都宮には、もともと店数が少なく、遠くに足を運ばねばならない。徐々に億劫になり、目当てを変更せねばという気持ちで芽生えてきた。ひよつとしたら「餃子店食べ歩き50店」のほうがいいかも…。

絵の方の目当ては絶対に達成しなければと心に誓う八月猛暑の今日この頃であった。

TOPIC

弓手さんが憲法トーク

日本国憲法条文から浮かぶイメージを油彩画の大作で連作してきた委員の弓手研平さんが、自作の前に『憲法トーク』をひらき、市民の憲法意識を喚起する活動を続けている。

この前代未聞のユニークな活動は、関西地域を中心に昨年の夏から続けられ10回シリーズ。

毎回大入りで好評な中、この春最終回を迎えた。彼の活躍は、憲法記念日を前に五月二日の朝日新聞紙上



で大きく報道された。一〇月には東京代々木上原の演劇スタジオにて、「はじめて憲法を考えるときのよう」に」と題して、役者演劇と絵画とのコラボ公演を開催し、詰めかけたファンを前に具象絵画の意義を大いに訴求した。

弓手さんは、憲法前文を描いた大作で二〇〇九年、損保ジャパン美術賞を受賞している。

一水会北海道出品者展

会期：2015年4月14日(火)～19日(日)
会場：大丸藤井セントラル・スカイホール
札幌市中央区南1西3 ☎011(231)1131

14名の参加でスタートします。20～50号の作品1点と6号程度の作品1点を各々が出品。北海道出品者の親睦会を兼ねて開きます。今後は、北見、釧路、旭川等に会場を移動しながら展覧会を開いていく予定です。御高覧下さい。(佐藤道雄 記)

『水路』にご投稿下さい

送り先▶さきや あきら方『機関紙一水会・水路』宛て
〒329-3215 那須郡那須町寺子乙201-36
e-mail: suiro.issuikai@gmail.com

自由投稿欄『水路』は一水会展の出品者が自由に交流する頁です。水路を拓くのは投稿されるあなたです。内容は絵のこと、生活のこと、なんでも結構です。皆様のお便りをお待ちしています。
【投稿についてのお約束】①ペンネーム、ハンドルネーム希望の方も住所、氏名を明記の上ご投稿お願い致します。②400字以内を目安にしてください。③楽しいカットや写真も募集しています(1人2点以内、ハガキ大)。④お送り頂きました原稿、写真などは、原則として返却致しません。返却の必要がある場合はその旨お知らせ願います。

あのころこれから

寺井力三郎先生訪問インタビュー

聞き手／新井・西

「昨年の一水会出品作『帰れぬ船』は美しい絵でした。制作の動機などについてお聞かせ下さい。」

芸大の同級生で、その人は気仙沼の生まれなの、僕らのクラス入って一番巧かったよ。僕は尊敬しちゃってね、いい人だったんだけど三年の時に自殺しちゃった。湯河原で鉄道に飛び込んでね。びっくりして吹っ飛んでつたらもう逝っちゃってるっていうんで火葬場へ。お葬式の時にも行ったの気仙沼へ。一周忌にも。昭和二十何年だろう、東北本線で上野十時か十一時頃出る。少し薄明るくなった頃一ノ関に着く。そこから大船渡線というのが出ていてね、北上山中を走って行くんですよ。ぱつと視界開けると前に湾があって、リアス式だから池みたいに静かな海で、漁船がいっぱいいて大きな町だった。その町の大きな本屋の長男だった。昔の賑やかな町を知っているから今度行ってびっくりした、あんまりひどい状態なのでね。何で行ったかという災害地の痕を見ておきたいのと、去年が僕ら夫婦の結婚式なの。倅がどこか連れてってやるよって言うから、じやあ十和田湖連れて行ってもらおうと言って、青森から二泊して太平洋岸に沿って下まで降りてきた



の。釜石、山田町、大槌町通ってね。まあひどい、海岸から山の際まで全部原っぱになっちゃって家なんか無いの。コンクリートの土台残っていてね。凄いなあこれほど思ってた、あの船の近くだったよ。うな気がしますよ彼の家は。もう何も無いんですよ。新幹線乗らなきゃならない時間があるから、せいぜい一時間いられなくて小さなスケッチして写真撮って。あの絵は写真結構多いですよ。現場の雰囲気は目で観て知ってるからね。災害地を見てみようという気持ちではなくて、昔の友人の所をどう

なっているんだか見たいっていう気持ちが強くて気仙沼行ったんです。話題性に富んだもの描いてみるみたいに思われるの嫌だったんだけど、あれは描かなくちゃいけないなあと思って描いたんですよ。――静けさの中に災害の悲惨を感じました。実際に遭った人は描けないんじゃないかと思うよ、あまりひどいんですよ。平山郁夫は僕と同年なんだ。日本画の上級生でいましたよ。彼は広島なんです、爆心地から遠くないところで被爆してるんですよ。

「日本のな美しさ」は理屈でなくて勘で分かる。他のは機能的かもしれないんですけどね。アメリカなんかはでかい馬力で弾を跳ね返すような鉄板をくつつけて、火が出ないような飛行機を作った。日本のは性能はいいんですよ。でも弾が当たるとすぐ燃え出しちゃう。零戦はエンジンのあたりが綺麗でね。戦争は嫌いですよ、でも戦闘機好きなの。矛盾してるね。軍艦は好きなんだけど戦争は嫌なんだ。だから形に惹かれてるのかなあ。

「画中に入って行くことが出来ませんでした。」

犬がいるからいいっていう人がいる。いた訳じゃないんです。でも犬が原っぱをクンクンいいながら走っていることを想像できないことはないからあれを描いたんですよ。

「パースペクティブに沿ってヴァルールが決められています。最近ヴァルールというのをうるさく言う人いなくなりました。」

「いいないねえ。僕らの時は概念的になるな、素直に描けと言われてた。こさえるなっていうさく言われた、芸大の先生方から。入る前にも言われた。ところが今は概念でいいって。コンセプトアートなんてそうなんですよ？ キチンと描く絵無くなっちゃった。だから一水会貴重ですよ。一水会は気を付けてるよね、ヴァルール。みんな色がきれいだ。」

「零戦の形には日本的な美しさがあると言われましたが。」

「書棚に軍記物の本が沢山並んでいますね。」

そうなんだよ。だからここへ皆さん上げるの嫌なんだよ。僕の少年時代はほとんど戦争の世代、あの頃のこと覚えてるんだよね。

「文学書も随分ありますがインスピレーションを受けますか？」

文学はだめ。アレックス・コルビル（一九二〇～二〇一三）カナダの画家さんのところ行ったでしょ、プリンスエドワード島が近いんですよ。それからアメリカの美術好きでね、ホッパー好きなんだよ僕は。あれはメイン州からあの辺の海岸、灯台をよく描いてる。あの通り綺麗なところですよ。ヨーロッパの良さとは違う、ヨーロッパみたいな歴史の街じゃなくて、『赤毛のアン』のとおり。コルビルさんの絵に『プリンスエドワード島へ』

っていう絵があるんです、近くなんです。カナダもいいところです。カナダの東部、アメリカに近い方ね。食いはアメリカよりよっぽど旨いわ。アメリカの南の方は黒人とメキシコ系、だけど北へ行くとはほとんど白人ですよ。ハワイとビュリタンとアングロサクソンか、それで「フスプ」といってちょっとプライド持ってるらしいんだな北の方は。

—ヨーロッパの美術と同時にアメリカポップアートにも心酔されて幅の広さが伺われます。

日本の美術は戦前は輸入の時期なんだよね。みんなヨーロッパ行って勉強しちゃ一家を成して行ったんだけど、戦後は日本の油絵を描く時期になって来た、日本の油絵描かなくちゃってという気風が出てきたんじゃないかなあ。日本の美術っていうのは素晴らしいですよ。大展覧会があったんですよ国立博物館で。風神・雷神だの燕子花屏風、宗達、光琳、等伯とかいっぱい国宝が並んで。で、マチス展もやってヴァンスの礼拝堂、晩年の切り紙絵、初期のものもありましたけど何か影薄かったねえ。僕の好きなのは神護寺が持っている源頼朝像、端正でね。四角い角張った着物は一種抽象形態みたいでしょう？好きなんですよ頼朝の「端正」なのね。決して日本の絵は負けているんじゃないって、文化が違うんだと思うよ。

—零戦にも「端正」なところがありますね？

うん、端正なんです、アングルもフェルメールもね。押し出してくるの好きじゃない、静かで落ち着いているのが好きです。

—先生の模索期、前衛の嵐の中で具象・写実の立場を貫くことは大変だったのではないですか？

大変っていうより僕はわかんなくなっちゃった、みんな全部。当時の芸大は卒業すると独立、国展、新作ばっかり出すんだ。絵が出来ないんだ、ああいう絵描こうと思っても。写実的な絵は出来ませんが、まあ五、六年は描けなかったですよ。丸善行ったらド・スタールの画集があつて、良いなあこういうのやってみるかなあと思つてさあ。つまり迷ってるんだ、無い物ねだりしてるんだ。自分には無いのにさあ、あれもいいこれもいいって出来るはず無いですよ。誰か言つてたけど、たんぼぼにチュールリップみたいな花を咲かすの無理だつて。たんぼぼはたんぼぼで充分美しいんだつて。だから自分のものを出しなさいって。若いうちは強がるでしょう。余計弱くなる。でも弱さに徹しちゃうと強くなるんだよね、不思議なものだ。絵もそうですよ。余計な妄想抱かないで自分のもの描くべき。今になつてようやく解る。抽象が新しく具象が古いつつていうのは嘘。性格ですよ、どうしても抽象が描け

ない人っている。僕は描けない。小磯良平先生も戦後のアンフォルメルのは迷つちやつたみたい。昭和四十年頃かなあ、「僕はベン・ニコルソン好きでね」つて言つた。それとアメリカのデ・クーニング。さすがの小磯先生もこういうのに惹かれてるのかなつて思いましたけど、そのうちまたもどつて行く。でね、言つてましたよ「結局具象だよ」つて。はつきり聞いて覚えてる。

—当時一水会にどのような印象をお持ちでしたか？応募までの経緯をお聞かせ下さい。

生意気だったからあんな古臭い会、いやだつて。林武先生から公募団体は墮落しているから出すな、おれが会場借りてやるからそこでやれつて高島屋借りてくれた。同級生・同年代とかじゃなくて上から下まで縦の団体を作れつて、横と縦と両方をやれつて。「黒土会」つていうの作つたんだ。黒土会出



身者は凄いのいっぱいいますよ。三、四十人いたんじゃないかな。そんなことがあつたんで、僕は一水会なんて古臭いから出してもしようがないって思つていたんですよ。いろいろ悶々としたんだけど結局描けないんですよ。絵が描けなくて描けなくて。浦和に親父がアトリエ作つてくれたんですよ。そこにちっぽけな家作つて結婚して住んでいた。近所に川村親光さんがいた。絵具屋へ買いに行くのと川村さんも来ていてそこで友達になつた。一緒に写生に行つたりね。「一水会に出さないか」つて彼言うから、どうかなあと思つていたんだよね、そしたら小松崎邦雄さんが近くに引つ越してきた。それから吉野谷幸重さんと仲良かつたからね、吉野谷さんと小松崎さんが盛んに、一水会に出さないかと言つたので、それで出した。出して良かったですよ、結局僕は具象しか描けないんだから。一水会出して初めて分かつたことあつたのはね、ちゃんと描くつていうのは大変なことだつてよく分かるんですよ、古臭いだの何だのつていうことじゃなくて。ヨーロッパ行つてフィレンツェでダ・ビンチの「受胎告知」見て何て凄いだらう、人間業じゃないつて。ポツティチエルリも凄い。ベニスも行きましたけど、大家が押し寄せるように攻めてくる感じだね。プラド行つたときはベラスケスの部屋があつて、「ブレダの開城」とか王女様と



も売り絵みたいなのからさ、いっぱいあるでしょ？ 本当にどっしりとしたいいものが、やっぱり描いてる人の考え方ですよ。

— 絵画としての構成要素が揺るがなければ写真も利用できるといことですね？

絵っていうのは格調が高くないと。ただ写しているんじゃないかと。絵の格調っていうものがある。格調の高さというか、その人の生活態度とか性格とか絵には全部出ちゃうんだよね。格がないといけないと思うなあ。

— 先生が入られた頃と比べて今の一水会はいかがですか？

一水会大したものだと思えますよ。みんな良いよ。半年、一年間の結晶なんだろうからね、凄いですよ一水懸命描いていてね。これは落としちゃ可哀想だつていう絵ばかりですよ。ただ困っちゃうのは毎年同じようなものが出てくるわけ。あれはまずいね。もつといいモチーフないのかなあ、みんな貧弱ですよモチーフがね。アツこういう所があったんだとか、見る者がはつとするようなものが出て来ないものかねえ。僕はモチーフ探しには苦労しますよ。幾らでもあるんだろうけど探すのは大変ね。でもね、自分の生活の周囲見ると良いのがありますよ。この間盛岡へ行けて言われて、新幹線が盛岡入る手前に岩手山か、

— 先生の絵からカメラアイ、シャッターチャンスといったようなものが感じられますが。
僕は点描で描くでしょうか？ 最初から形を決めなくちゃ描けない。運動している最中の体だとかは筆捌きのいい人は描けるけどさ、僕みたいなのは中途半端なポーズとか、運動している状態だとかそういう

のでさえ決めなくちゃならない。本間正義(美術評論家、元埼玉県立近代美術館館長)さんが巧いこと言っていましたよ、「ストップモーションかけたような絵」だつて。

— 車のドア側面の面白い形が描かれていますが。カメラアイには意外な視点が現れますね。

あれは描かないわけにいかないでしょう？ 必要に迫られて描いている。昔アメリカ映画で女が車から降りる場面があった。降りる時にハイヒールなんか履いてると綺麗なんですよ足が。あれ(降りる二〇一三作)アメリカ映画の影響。誰かが言っていた、写真を見て描くと悪魔に魂を売っちゃったようだつて。だけどカメラ使ってるんだ、

その人は。写真見て自分の頭脳で処理してずっと手に来ると、それだけの行程があるわけだから、写真とは違ったものが出るはずだつてね。写真のように描いてあつて

綺麗に見えてねえ。僕はあいうの見てると描きたいと思っちゃうから抽象画なんか描いている暇無いんだ。ほんとに具象だつていいものいっぱいあるもんねえ。一水会は同じような人が集まってるんだから良いと思うんだけど、それにしてもモチーフがねえ。もう少し何とかなんねえかと思うよねえ…。

— 『写実の正道』と定款にありますが一水会は今でもそれを貫いているのでしょうか？

写実の本道っていうの何なんだろうねえ、よく解らない。私は写実的な絵しか描けないから今の範囲をはみ出さなきゃ良いんじゃないかと思つてますけどね。ただあんまり凝り固まっているとね、写実



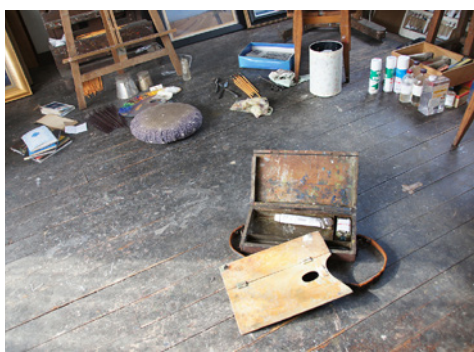
写実で。でも近頃、若い優れた人が出てきて良かった。時代が変わると具象的な絵も変わっていくんじゃないですかねえ。そこに裕さんの絵ですけどね、貼つてある絵はがき。僕は裕先生とつても尊敬しているんですよ、ヴァールの神様だから。マチスの弟子なんですけどね。裕先生はヴァールじやうるさかつたねえ。伊藤廉先生は「水を打つたように静かであれ」つて、ヴァールが合うつていうのは。小磯先生はモチーフは大事だつて言つてたね。高田誠先生には絵描きの生活はこういうもんだつていうの教えてもらったね。絵描きとして為すべきことを為すつていうことはやっぱり必要なんだよ。絵描きだから変わり者だから何してもいいつてことは許されな

いね。それから小川遊さん達と「通士会」っていう会を作ったでしょ。あのグループ展っていうのは、一水会しようがないよこれじゃ、みんないつもマンネリみたいな絵ばかり描いてちや。俺たちで少し発破をかけようじゃないかっていうんで作ったんですよ。高田先生に何も言わなかった、グループ展をやるっていうことを。そしたら先生の耳に入って、こういう大事なことをやるのに何で黙ってるんだって、うんと怒られちゃった。小川さんと僕が呼びつけられてコテンパンに怒られたねえ。礼儀を守らなくちゃいけない。しかし、遙士会を作ったからは随分応援してくれました。高田先生は弟子を大事にしてくれてね、弟子は庇いましたよ。いつも行くところまで送って出してくれる、個展は必ず来てくれるし文章は書いてくれるし。普通の絵描きが生きていくためにしなくちゃならない生活の生きざまっていうかな、そういうことを高田先生よく教えてくれた。

—先生のこれからについて伺わせて下さい。

これから？もう終わり(笑)。この間のサトエ、よくしてくれてね、僕のことを。あそこは美術館ですからやっぱり絵が良く見えるように出来てますよ。絵の善し悪しは別として、我ながらずいぶん沢山描いたものだなあって思いましたね。その点じゃ満足してるんです、精一杯やったっていうことはね。あれ観てもういいやって思った。これだけやったんだからもういつ死んでもいいと思ってしまうけどね。別にこれっていう目標無いですよ。僕の行き方っていうのは描きたいものを描く、それだけ。描きたいものをやりたいようにやるっていうこと。もう散々迷ったからねえ、描きたいものも思いついたら描いた方がいいんじゃないかと思うんですよ。あんなもの描いてらあなんて思う人いるだろうけどね。もう何言われてもいいやって思って。コルビルさんが力になってますよ。絵っていうのは言葉が解らなくても完全に通じるんだよねえ。僕の絵を観て「アドマイヤ、ビューティフル」、あれは随分力になったねえ。あの先生の言葉を思い出すとちよつと自信が出てきますよ。外国の人に解ってもらえたんだから、尊敬する人ね。

—音楽を流しながら制作されるのですか？



—ありがとうございます。

音楽は好きです。ドビュッシー、ラヴェル、ストラヴィンスキー、マーラー、ブラームス。プラモデルもちよつと遠のいてる、目が良く見えない。でもこれやっていると随分気が紛れましたよ。絵描きは大抵不安定でしょう？神経症みたいなことになること多いんだよね。僕もなりましたよ。結局自分が何者であるかっていうのが解らないで、もがいているのが神経症だから。自分というものが解れば自分に合ったものを發揮できる絵が描けるようになるんですよ。自分の発見だよ。だからこのままでいいんだと。臆病でビクビクハラハラしているんだけど、いいんだって。迷っているのは迷った絵でいいんだよね。通過したお陰で今があるんだから。カメラは影響ありますね。どこの場所でも撮れるからね。ただあまりにも一見してこれはカメラっていうのは頂けないけどね。車はみんなお世話になってるし、コンピューターだってテレビだって。テレビ描いたって良いんだよ、面白いと思うんですけどねえ。もう少し時代をキャッチして貰いたいっていう気持ちありますよねえ…。

第12回 一水会精鋭展 会期: 2015年3月9日(月)~15日(日) 会場: 東京銀座画廊・美術館

出品予定作家	浅見 文紀	青木 年広	新 泰郎	鮎川 功	新井 隆	市川 広美	市原はるか	伊藤 尚尋
今城 俊雄	岩池 和代	宇佐美明美	遠藤 博政	小笠原あい子	小沼 秀夫	大津 明美	大野 文子	岡山 豊樹
加曾利光男	嘉納希代子	茅野 吉孝	河石 正義	川村のり子	菊地 洋二	北村 春美	木村 毅	久世 夢二
久保 慶議	久保多貞夫	熊谷 弥生	栗原 高光	小泉 玲子	児島 真澄	五味 至	近藤 孝子	斎藤由美子
芝 教純	城 眞知子	菅井 惇子	杉田 公子	鈴木 喜博	世良ツヤ子	相馬 順子	高橋 康夫	高橋 阜
田中 敏雄	茶本 良隆	土田佳代子	寺井 義夫	戸苺 武宏	中村 哲泰	中村 裕二	長坂 千恵	中山 一昭
浜崎 千尋	平井 芳夫	広瀬 範	保坂 晶	松澤 泉次	中村 弘子	水谷 香織	三好 典子	中山 一昭
本橋 靖夫	森 敬介	森木 和子	柳沢賢一郎	山下 審也	山本 佳子	弓手 研平		三輪由紀子

第54回 一水会選抜展 会期: 2015年2月25日(水)~3月3日(火) 会場: 日本橋三越本店6階特選画廊 盛岡巡回展(深沢紅子野の花美術館): 3月25日~4月9日

出品予定作家	小川 游	川村 親光	本山 唯雄	寺井力三郎	吉野谷幸重	吉崎 道治	田中 義昭	越智 節昇
浅見 嘉正	辰巳 文一	鈴木 益躬	寺井 重三	さきやあきら	久保田辰男	佐藤 道雄	篠原 昭登	山名 将夫
田島 健次	玉虫 良次	鈴木 順一	山本 勇	小泉 元生	丹羽 章	斎藤 蕙子	稲原 吉男	山本 耕造
浅見 文紀	一の瀬 洋	杉森企観明	廣畑 正剛	山田 和夫	平井 利明	山田 正博	上原 文丸	笠井 隆良
岡野 信子	新井 隆	勝谷 明男	河西 昭治	相馬 順子	西 真里子	三輪由紀子	森 敬介	茅野 吉孝
芝 教純	鈴木 喜博	滝沢美恵子	竹内 徹	長坂 千恵	中村 裕二	保坂 晶	村上 選	山下 審也
李 志宏	伊藤 尚尋	岩田ヒサ子	久世 夢二	久保多貞夫	黒鳥 正己	才村 啓	城 眞知子	須貝 昌春

一水会事務局だより



◆新拠点、埼玉真川口市の旧・芝園中に「白の会」が活動の場を移しました。

同会は一水会展出品者を中心とする15名程の集まりで、小川游先生にご指導を仰ぎ、さいたま市の公民館で毎月三回、プロのモデルを使い、三〇年近くもグループによる制作に励んで来ました。

毎年夏には活動の成果を埼玉県立近代美術館で発表し続けています。



「芝園中の教室は広く使えて採光も良く、時間枠も緩やかで抽選も無いため、慌てることなく利用出来ます。借景にもなる窓外の景色は四季折々で様々な表情を見せてくれるのではないかと今から楽しみにしています」とのこと。

◆七月二〇日、二一日の両日、「芥子園研究会の主催による大作勉強会が催されました。

各地から持ち寄られた未完の大作を前にして、講師の先生方は、作者との対話



を通して、一点一点懇切丁寧にアドバイスを重ねて行きました。遠方の参加者からも、「中途の絵をじっくり観て頂いたので、来て良かった」との声を多く聞きました。

アトリエを積極的にご活用下さい。

◆個人の制作、絵画教室、サークル活動、スペースを必要とする作業、会議、会合など、幅広い発想で教室をお使い下さい。

《利用について》

●利用時間帯

午前九時～午後七時

●1回の利用料

サークル及び個人 午前九時～十二時(二千円) / 午後一時～四時(二千円) / 午前九時～午後七時(二千円)

※団体については別途に取り決める(心談)。

●利用の申し込み

事務局(山本)まで

☎〇四八(八二六)八八〇五

携帯〇八〇(二一六八)七一五六

※詳しくは機関紙第2号の

「一水会事務局便り」をお読み下さい。

み下さい。

第76回一水会展は大変盛況のうちに終了しました。今回も作画に対する情熱と努力が伝わって来る作品が多く、昨年より入選が四〇点ほど増えて六七七点を展示、入場者総数は一七、一五四人の観客を動員することができました。

2015年の展覧会スケジュール

■第54回選抜展

二月二五日～三月三日

於/日本橋三越本店

運営委員・常任委員と選抜された委員、会員、会友、一般入選者が出品。

■第12回一水会精鋭展

三月九日～十五日

於/東京銀座画廊・美術館、銀座メルサ7階

「第76回一水会展」にて75名が選出されました。50号の作品を展示。

■盛岡展

三月二五日～四月九日

於/深沢紅字野の花美術館

「第54回選抜展」より、運営委員、常任委員に加え、会場で選抜された作品。

■公募団体ベストセレク

三月二五日～四月九日

於/深沢紅字野の花美術館

「第54回選抜展」より、運営委員、常任委員に加え、会場で選抜された作品。

■その他

記載の他、各地域において一水会展出品者による展覧会。

シオン美術2015

五月四日～二七日

於/東京都美術館

全国の美術公募団体から選抜された27団体による合同展覧会。第4回の今回、一水会からは久保田辰男氏、佐藤道雄氏、山本勇氏、久保慶議氏が出品。

※「公募団体ベストセレクシ

ョン美術2016」第5回出品者に山名将夫氏、田島健次氏、保坂晶氏、伊藤尚尋氏が決まる。

■第77回一水会展

九月十八日～一〇月三日

於/東京都美術館

■その他

記載の他、各地域において一水会展出品者による展覧会。

最近の動静

【逝去】小島義明氏(運営委員)・皆吉志郎氏(運営委員)・斎藤政一氏(常任委員)・弦田英太郎氏(常任委員)・前田正夫氏(委員)・雲子氏(会員)

居立雄氏(会友)・高須登氏(会友)・平林邦雄氏(会友)

【退会】井上典子氏(会友)・水野光美氏(会友)

【休会】鎌田信氏(会員)・瀧野孝氏(会員)・中村美栄子氏(会員)

子氏(会員)

編集後記



ラジオ体操を始めました。近くの公園で、朝六時半から。早朝散歩の時、ずつーと、十数年前から、その一〇〇人ほどの集団を横目に見ながら通り過ぎていました。今年、ついにその輪に加わりました。雨の日は自宅です。自分一人でも出来ることだけど、皆でやると継続し易いわけで、少し団体展に似た部分があります。K・M

第3号では、各地の新しい取り組みをいくつか紹介できました。創刊号と2号を76回展の受付に置いたら、ずいぶん売れてびっくり。機関紙「一水会」がこちらで読まれて、お役にたてると嬉しい。会への要望や課題を提案、初めて入選した方の声も聴きたいな。『水路』にお声を寄せて下さい。S・A